

# 震災復興の現場で、 若者はいかに成果をあげたか

2012/6/30

代表 藤沢 烈



## 藤沢 烈 (ふじさわ れつ)

(社) RCF復興支援チーム 代表理事

外資コンサルティング会社勤務後、NPO・社会事業・ベンチャービジネス設立に特化したコンサルティング会社を経営

3.11後はRCF復興支援チームを立ち上げ、震災関連情報の分析や、被災地における事業創造に取り組んでいる

復興庁政策調査官、文部科学省教育復興支援員も兼務

Twitter : @retz

Facebook : <http://www.facebook.com/retzfujisawa>

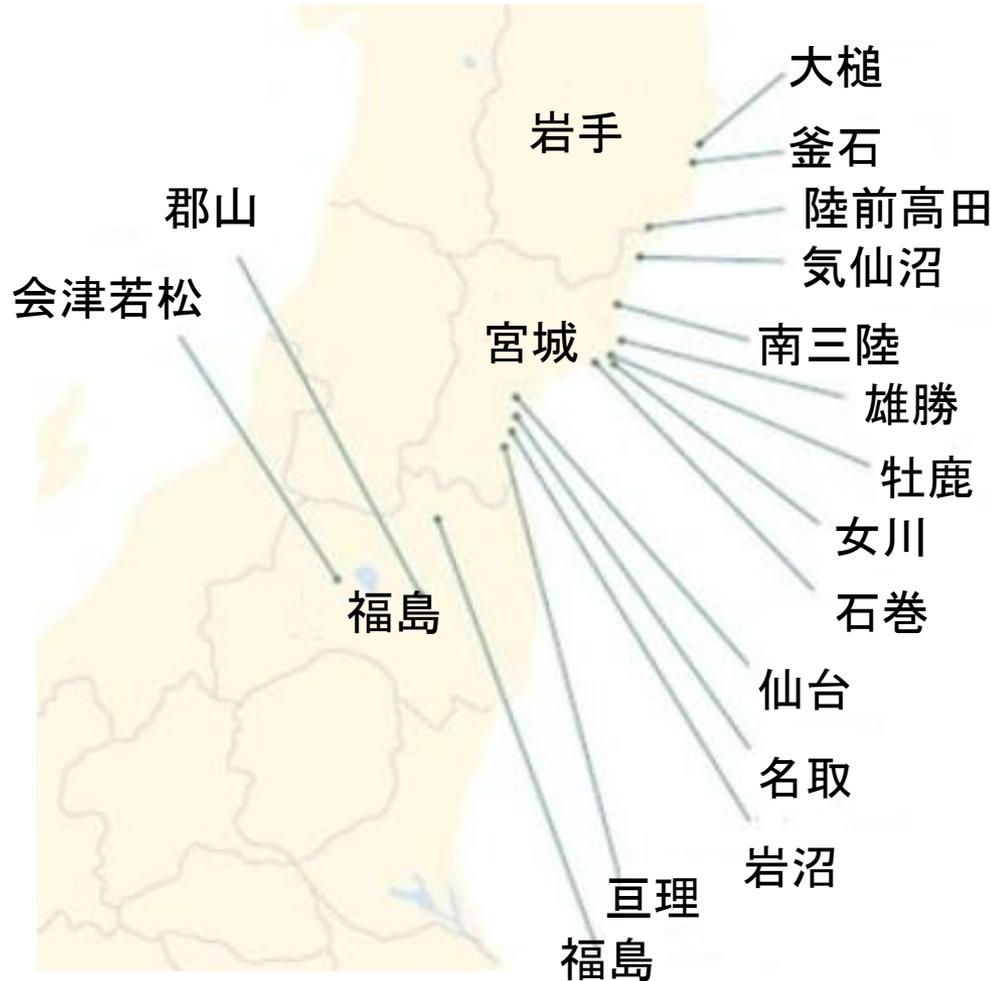
## 被災地で活躍する若者たち

### 事例紹介

### プロフェッショナルリズム+ソーシャルネットワーキングの必要性

### 活躍する若者の拡大/再生産に向けて

## 右腕派遣プロジェクト



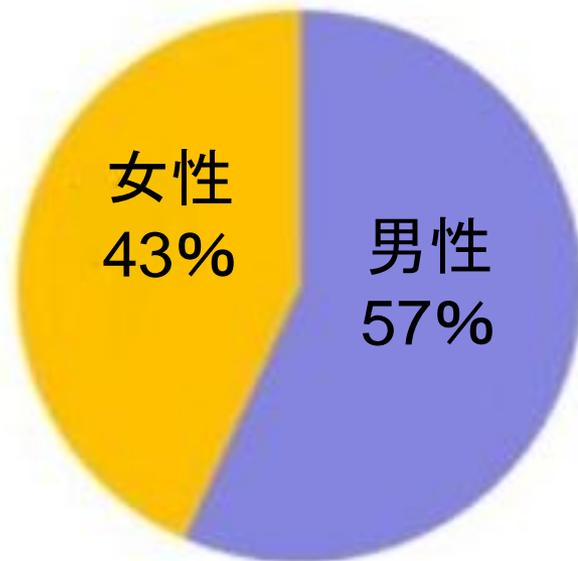
- 被災地復興を進めるリーダーは何人も各地に誕生
- しかしリーダーを支える人材が不足

- 被災地の復興リーダーのもとに、「右腕」となるリーダー人材を6-12カ月派遣
- 派遣先プロジェクト数は現在50以上、派遣者は100人以上

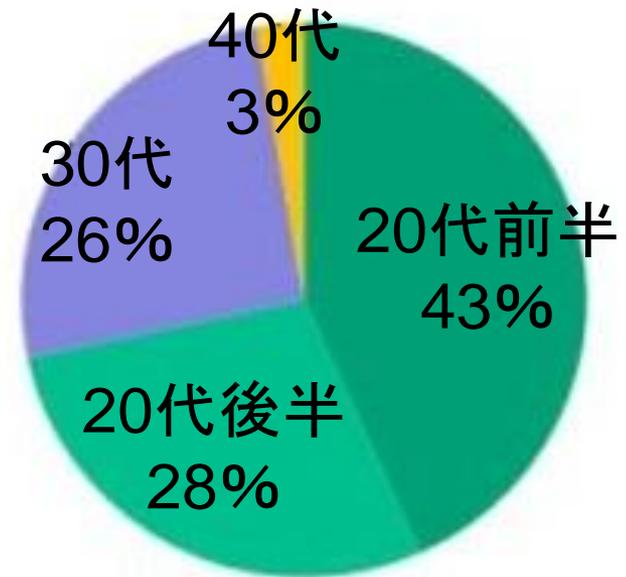
資料: 震災復興リーダー支援プロジェクト (<http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/>)

## 派遣された右腕のプロフィール

### 男女比率



### 年齢比率

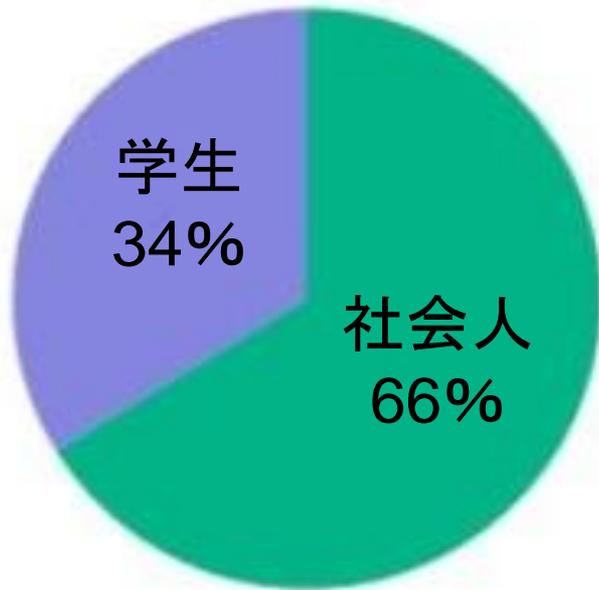


- 男女比率では、男性の方がやや多いが、男女問わず活躍
- 年齢比率では、20代の若者が81%を占める

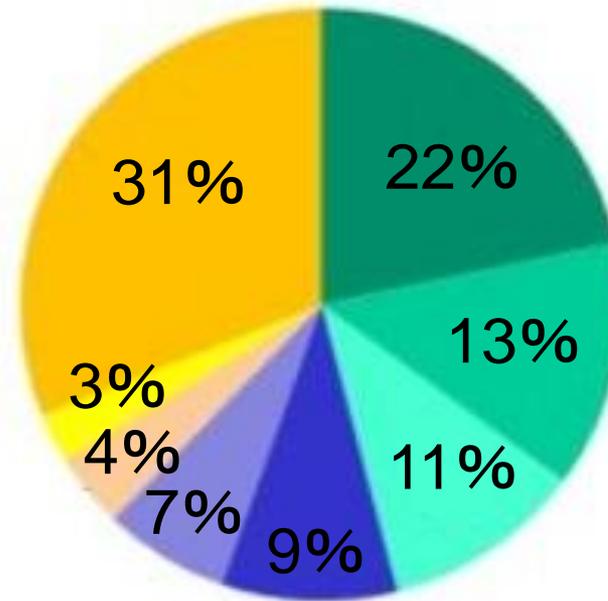
資料: 震災復興リーダー支援プロジェクト (<http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/>)

## 派遣された右腕のプロフィールと担当職種

### 社会人・学生比率



### 右腕の職種比率



- 事業開発・促進
- 業務統括
- リサーチ・情報分析
- サービス・商品開発
- マーケティング・販売促進
- ファンドレイジング・広報
- ボランティア・マネジメント
- コミュニティ・マネジメント

- 社会人が66%
- 地元根差した活動を推進するための役割を担当

資料: 震災復興リーダー支援プロジェクト (<http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/>)

## 被災地で活躍する若者たち

### 事例紹介

プロフェッショナルリズム+ソーシャルネットワーキングの必要性

活躍する若者の拡大/再生産に向けて



## ■大船渡・仮設住宅運営支援事業

・大船渡4,500人の仮設住宅入居者向けの支援事業。同モデルは大槌町、釜石市しにも横展開。仮設支援プロジェクトとして最大級。北上市とNPO-NETサポートが企画し、岩手県、大船渡市が連携、人材派遣会社が運営を行なっている

## ■菊池広人 いわてNPO-NETサポート事務局長

・岩手県盛岡市出身。早稲田大学卒業後、所沢市西地区総合地域スポーツクラブ事務局等を担当。2006年に岩手に戻り、現職。

資料:みちのく仕事(<http://michinokushigoto.jp/archives/1613>)



### ■被災地の放課後学校 コラボ・スクール

・被災し失業した塾講師を雇用し、放課後の学校を使って、子供たちに学ぶ場を提供する「コラボ・スクール」を女川・大槌二か所で開校している。本事業では、地元教育委員会、PTA、地域住民や、企業、財団と連携して支援を実施

### ■今村久美 NPOカタリバ代表理事

・岐阜県高山市出身。2001年に慶應義塾大学(SFC)卒業後、リクルート等でアルバイトをしながら、NPOカタリバを設立。全国約400の高校、約90,000人の高校生に「カタリ場」を提供

資料:NPOカタリバ(<http://www.collabo-school.net/>)



コラボスクール

<http://www.youtube.com/watch?v=1CcE5qVERvo>



## ■水産業支援

・東北の主要産業である水産業の復旧・復興を支援。企業・財団等と連携し、ハード(施設)、ソフト(6次産業化・地域ブランド創出)の両面での支援によって水産業の復興を目指す

## ■茂木崇史

・東京都出身。東京大学経済学部卒業後、マッキンゼー&カンパニー、(株)リンクアンドモチベーションを経て独立。現在は、水産加工業を中心とした産業復興支援に携わっている

左写真:水産加工支援イメージ(河北新報より<http://www.kahoku.co.jp/>)



### ■復興まちづくり推進事業

・釜石市において地域コミュニティ再生を支援。釜石市や地域NPOと連携、協力しながら、釜石市に拠点を置いて住民主体のまちづくり活動を推進している

### ■岡本敬史

・埼玉県越谷市出身。早稲田大学卒業後、株式会社オリエンタルランド、株式会社ドワンゴを経て、震災後はRCF復興支援チームに参加。監査法人・民間団体と連携し、被災沿岸5市町における教育状況調査などに携わる

左写真:まちづくり協議会イメージ(基石地区まちづくり協議会より<http://ofunato-city.com-plat.jp/group.php?gid=10033>)

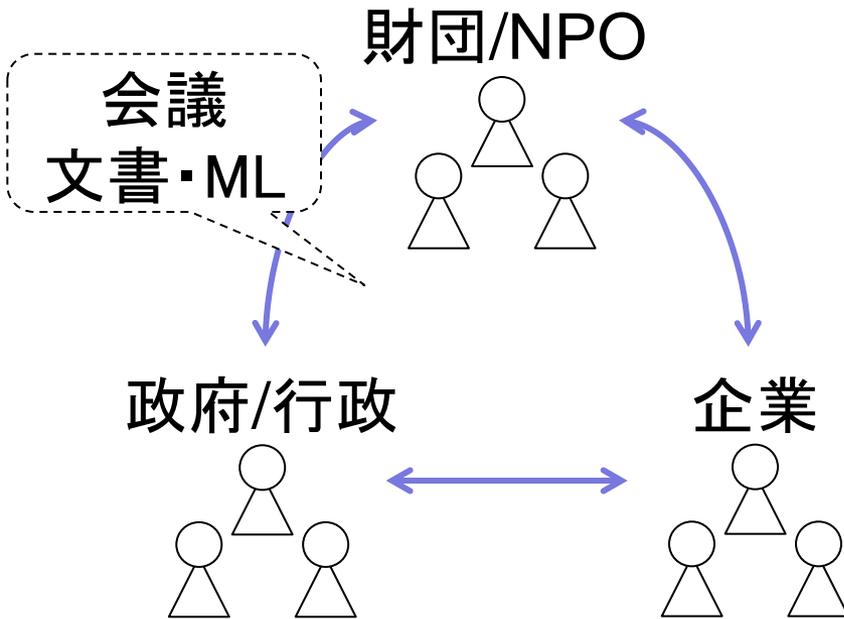
被災地で活躍する若者たち

事例紹介

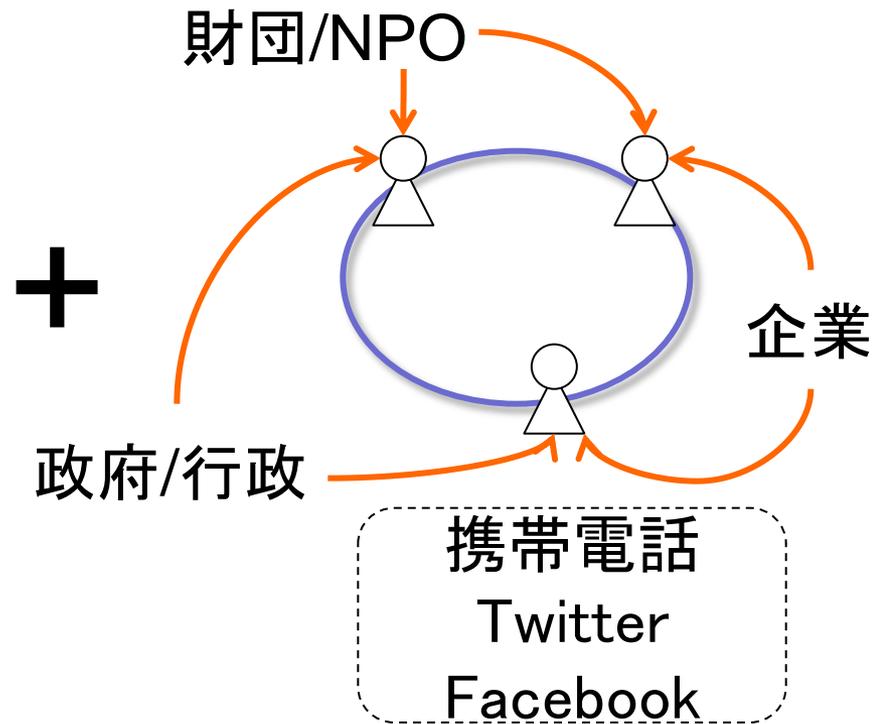
プロフェッショナルリズム+ソーシャルネットワーク  
キングの必要性

活躍する若者の拡大/再生産に向けて

## プロフェッショナリズム



## ソーシャルネットワーキング



- 被災地のリーダーは組織人としての作法(プロフェッショナリズム)を保有
- 加えて、携帯・SNSを駆使し、組織を越えた繋がりを活用して情報を確保し、成果をあげている

被災地で活躍する若者たち

事例紹介

プロフェッショナルリズム+ソーシャルネットワーキングの必要性

活躍する若者の拡大/再生産に向けて

## 1.社会的評価の確立

- 復興支援、非営利活動などにおける個人・組織をフェアに評価する仕組みが必要

## 2.ボランティア組織のマネジメント強化

- 資金力がない団体における組織力強化
- 組織設計(ミッション・業務の付与)、業務管理、資金調達など

## 3.専門トレーニングの導入

- 非営利分野における専門性の確立
- 基本的な実務能力を高められる方法論の確立と、機会提供